

科目名	成人看護学実習 I (急性) Adult Nursing Practice I		担当教員 (研究室番号)	脇坂 浩 (306) 他		教員への連絡方法 (メールアドレス)	脇坂:hiroshi.wakisaka@mcn.ac.jp					
履修年次	3年次 後期	科目 区分	専門科目・生涯看護学		選択 区分	必修	単位数 (時間)	2 (60)	授業 形態	実習	科目等 履修生	否
											オープンクラス	否
科目 目的	周手術期にある人とその家族について理解し、状況に応じた適切な支援を行うための看護実践能力を養う。											
ディプロマ・ ホルダー (DP)	主要なDP	H 人々の健康に関する課題の解決に向けて、安心・安全・安楽・自立を基本とした看護を実践する技能を身に付けている。(技能・表現)										
	関連する DP	F 人々の健康的な生活を支援するために、必要な情報を様々な方法により収集する技能を身に付けている。(技能・表現) G 身につけた知識を基盤に、収集した情報を科学的・論理的に分析し、人々の健康に関する課題を把握する能力を身に付けている。(知識・理解)										
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周手術期にある受け持ち患者に関する情報を収集し、解釈・分析をすることができる。</li> <li>2. 周手術期にある受け持ち患者の回復促進に必要な問題を抽出し、計画を立案・実践することができる。</li> <li>3. 周手術期にある受け持ち患者の家族に関する情報を収集し、援助の必要性を検討することができる。</li> <li>4. 医療チームの一員として、周手術期における医療チームの連携・協働や看護職者の役割について学ぶことができる。</li> <li>5. 自己の学習目標に基づき、看護学の学習者として主体的に実習に取り組むことができる。</li> </ol>											
成績評価方法 (基準)	実習内容、実習記録の目標到達度と自己評価を点数化し評価する。											
再試験の有無と 基準等	「実習の出欠席および追実習に関する取扱要領」の第4条の記載される理由による1/4以上を超える欠席の場合に、追実習を認めることがある。											
教科書	その都度提示する。											
参考書等	その都度提示する。											
学生の主体性を伸ばす ための教育方法と 学生への期待	周手術期にある患者は、日々状態が変化します。また、広い年代層と様々な疾患を持った患者を対象に看護が展開されるので、十分な知識を持って実習に臨み、患者の変化に合わせた毎日の学習が重要となります。											
備考												

## 学 習 内 容

実習期間：2週間

内容と方法：周手術期の患者1名以上を受け持ち、看護過程を展開する。  
手術侵襲から回復していく過程にある患者に実施した看護の評価を行い、一連の看護実践を通して看護のあり方を学ぶ。  
可能ならば、受け持ち患者の手術見学を行う。

実習場所：三重県立総合医療センター  
済生会松阪総合病院  
伊勢赤十字病院等を予定

\*「実習要項」参照

## 学 習 課 題

事前課題：成人看護方法 I や IV で作成した課題レポートや自己学習ノートにより、術前・術中・術後の看護について自己学習する。  
主に消化器系器官の手術療法について自己学習する。

事後課題：受け持ち患者の看護過程などの実習記録を指定の期日までに提出する。

## 実務経験を活かした教育の取組

・担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本実習を行う。  
また、実習施設では看護師である実務指導者からの指導を受ける。